



南太秦だより

令和元年度後期学校評価結果

令和元年度後期学校評価結果 臨時号

京都市立南太秦小学校

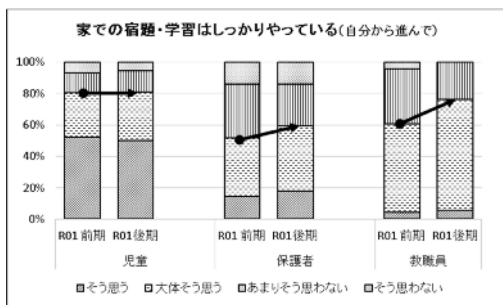
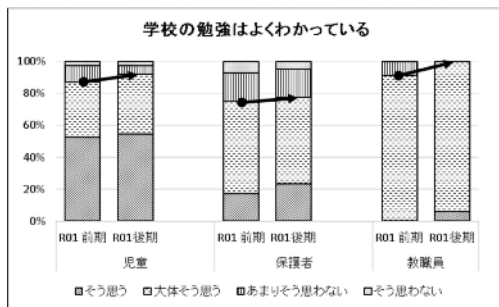
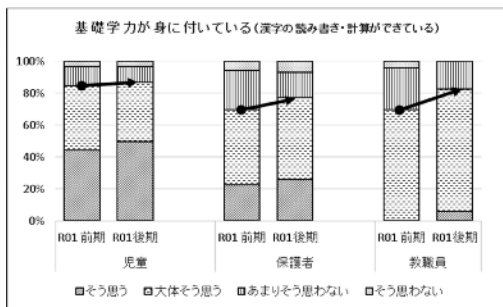
校長 上田 清乃

「南太秦小学校の教育に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。児童、保護者、教職員の前期と後期の結果比較を行い、今年度での成果や課題などについてまとめています。

【アンケート回答率】児童：99% 保護者：96% 教職員：100%

確かな学力

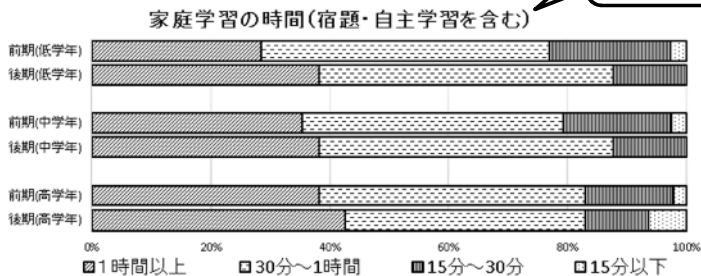
学ぶ意欲があり、進んで学習する子



学力関連の項目の3項目において、
児童・保護者・教職員ともに全体的に
肯定的な回答が上昇する傾向がみられ
ました。



前期より家庭学習の時間に改善が
みられました。



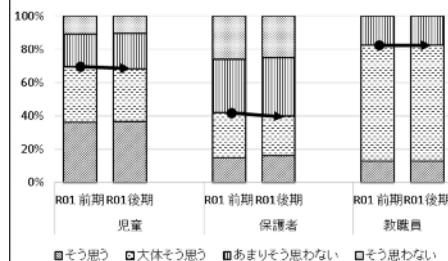
家庭学習時間のめやす

(学年) × 15分

6年生ならば6 × 15分で
毎日90分が、家庭学習の
めやすとなります。

前期と比較すると、低・中学年で30分～1時間と1時間以上の割合が増え、15分以下の回答が0%になっています。高学年では1時間以上の割合が増えています。ただ、15分以下の児童が増加しているのも気になります。

よく読書をしている



学年別 図書年間貸し出し冊数

1年	2,213	4年	1,666
2年	3,022	5年	1,351
3年	1,055	6年	740

「学校では読書をしているが、家庭ではあまりしない」という様子が、左のグラフからも読み取れます。また、本校図書館での貸し出し冊数をみると、学年が上がるにつれ、やや少なくなる傾向がみられます。

【考 察】 ～確かな学力のために～

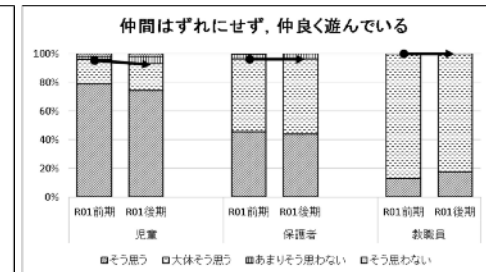
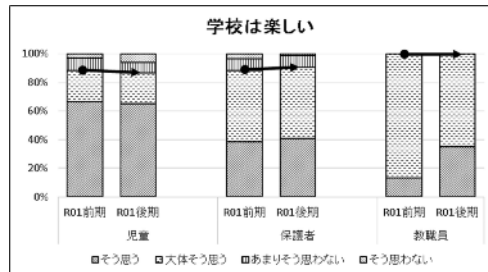
学力関連の3項目において、児童・保護者・教職員ともに肯定的な回答が増えており、年間を通しての取組の成果や子どもたちの成長を実感できているものと思われます。しかし、「基礎学力」の項目については、三者とも「そう思わない・あまりそう思わない」の回答が約20%あり、「学校の勉強はよくわかっている」の項目では、教職員のほとんどが「わかっている」と感じていることにに対し、児童の7%、保護者の22%が「そう思わない・あまりそう思わない」と回答しています。また、今年度のジョイントプログラム・プレジョイントプログラムなどの結果をみると、全市平均を下回る学習領域も多くみられるのが現状です。新学習指導要領実施に伴う授業時数の増加により、基礎学力定着のための十分な時間確保が難しいなか、学校行事等の見直しを進めながら、児童の実態をしっかりと把握し、より一層の授業改善、家庭学習の課題内容の工夫など、今後も全教職員で見直しや改善に取り組んでいきたいと思ひます。

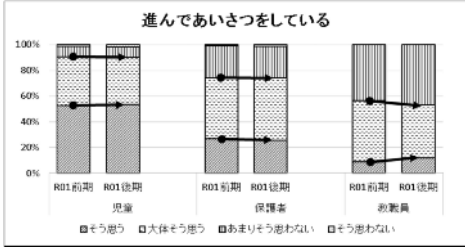
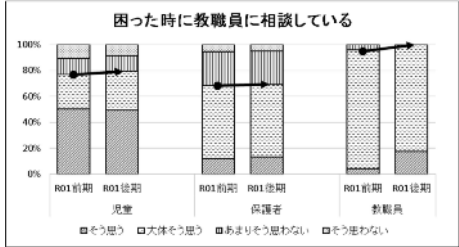
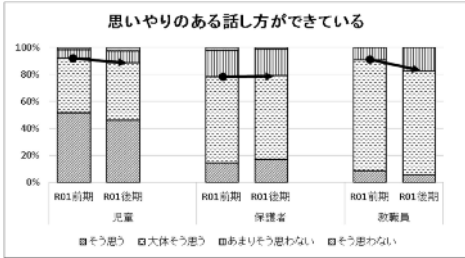
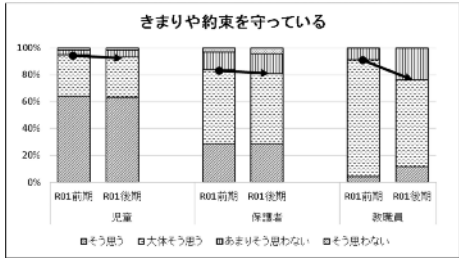
家庭学習においては、南太秦小学校版「家庭学習のてびき」の配布や、前期学校評価で見えてきた課題について意識してご家庭で取り組んでいただいたこともあってか、「自分から進んで」家庭学習に取り組む姿が増えているようです。しかしながら、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した保護者の割合が41%となっていることや、4年生以上で家庭学習時間が30分以下との回答している児童が10%となっていました。小学校段階で家庭学習の習慣をしっかりとつくるためにも、ご家庭でも時間の許す限り宿題について話題にしていただき、一緒に問題や自主学習のテーマづくりに取り組んでいただきたいと思います。

読書についてはそれほど変化がみられませんが、肯定的な回答が児童・教職員は比較的高く、保護者は低いという結果から、学校では読書をするが、家庭ではなかなか読まないといった現状が変わらずあることが分かります。年間貸出冊数をみると、高学年ほど貸し出し冊数が少なくなる傾向がありました。高学年ほど選ぶ本がページ数の多いものになるので、冊数だけでは見えにくい要素もありますが、頂いた自由記述の中にも「読書は好きなのですが、学校で読むので満足し、家で読む時間はありません。」「ユーチューブ等の動画を見過ぎ。本を読む等してほしい。」とあるように、習い事や塾、スマホやゲームなどに時間をとられ、読書に使う時間が少なくなっているのかもしれません。本校では、図書館に足を運ぶ回数が増えるように、年に2回読書週間を設けたり、選書会を行ったりしています。また、おはなしサークル「ぼぶら」さんによる1年生への絵本の読み聞かせや委員会活動の読み聞かせを通して本への興味を広げられるようにしているところです。

豊かな心

他者を思いやる心をもち、人やものを大切にする子





【考 察】 ～大人として教えるべきこと～

「きまりや約束を守っている」「思いやりのある話し方ができている」「進んであいさつしている」の3項目で、児童・保護者・教職員ともに、評価がやや下がる傾向がみられました。特にあいさつについては前期と同様に、児童と教職員の評価に大きな差がみられます。挨拶は人とのつながりを作るためにも大切なものもあり、しっかりと育てていきたい重要な課題と捉え、挨拶のもつ意味や相手の気持ちを考えるといった根本的なところから粘り強く取り組んでいきたいと思います。

「思いやりのある話し方ができている」の項目については、「人を傷つけるような話し方が少し気になります。兄弟に対してつかうようになっています。」といった自由記述がありました。また、スマホやタブレットなどでゲームをしている時に乱暴な言葉遣いが出ているといった話題を保護者の方から聞くことがよくあります。オンラインゲームでボイスチャット機能を使用したゲームなどでは、対戦に夢中になるあまり、大声を出したり、暴言を吐いたりしてしまうことがあるようです。また、不特定多数の対戦相手とのプレイだった場合、荒っぽい言葉を耳にし、その影響で乱暴な言葉遣いをしてしまっていることもあるようです。そのため、ゲーム内での言葉のやり取りがそのまま普段の生活でも抵抗なく出てきているのではないのでしょうか。言葉遣いやネット社会でのマナーを学ばせることも大切なことですが、それ以前に、子どもに与える遊び道具として適切なものであるかどうか、しっかりと見極めることは、大人の責任として重要なことではないでしょうか。

「仲間はずれにせず、仲良く遊んでいる」の項目については、三者とも9割以上が「そう思う・大体そう思う」と回答しています。しかし、約7%の児童がそう思っていないと回答しており、担任による児童への聞き取り等を実施して、問題の把握と解決に努めていきたいと思っています。

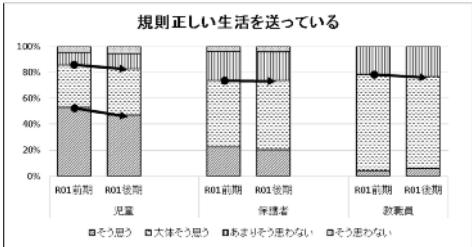
「困ったときに相談している」の項目については、児童・保護者ともに、「あまりそう思わない・そう思わない」の回答が2割～3割となっています。自由記述にも「本人のミスなどで困っている事を相談できていない様子です。」などのご意見も頂いています。この回答には、「困っていることがないので相談していない」というものも含まれているので、この項目への回答の理由について見極めていく必要はありますが、何らかの原因で相談しにくい児童がいることに気付くことができていないのではないかと、この結果を真摯に受け止め、振り返らなければならないと考えます。

健やかな体

自分の体を大切にする子

【考 察】

児童の回答について、「そう思う」の回答が6ポイント減少しています。1月の冬季休業明け「生活リズム調べ」によると、宿題などに取り掛かる時間が遅かったり、ゲームやネット動画に夢中になっていたりすることで、就寝時間が遅くなっているケースが多くみられました。さらに、起床時間が遅くなり、朝食を用意しているのに時間がなくて食べられない、歯磨きをしないといったこともあるようです。また、生活調査期間4日間のうち、テレビやゲームを2時間以上している児童が、どの学年にもいるということもわかりました。今やスマホやタブレット端末は日常生活に深くかかわるツールとなっており、これからの時代を生き抜いていくうえで、これらのツールを上手に活用する方法をどのように教えていくのか、考え直さなければいけません。



自由記述より

今回のアンケートでも、保護者の皆さんより数多くの記述をいただきました。ありがとうございました。一部になりますが、紹介させていただきます。

- ◆ 考え方に本人独特のものがはっきりと出てきたと思います。その分、納得のできない事への反発も出るようになりました。でも、筋を通して話せば理解してくれるようにもなりました。日々の変化と成長を感じています。
- ◆ 友だち同士で教え合う姿が見られる回数が増えてきました。
- ◆ 学習の積み重ねが大切であると本人がようやくわかるようになってきました。割り算や掛け算ができないと解けないなど、大人は当然と思っていることを理解できていないと思いました。
- ◆ 自分の気持ちを抑えることができずにいる姿が多く、お友だちとトラブルにならないか心配です。自宅でも気をつけて生活していきます。
- ◆ 前はよく本を読んでいたけれど、あまり本を読まなくなりました。今後ますます読まなくなるのでは…と残念です。読書の良さを伝えられるよう家庭でも工夫したいと思います。
- ◆ 評価や管理ばかりにならないように、子どもたちののびのびした成長を願っています。

今回もたくさんのご意見・ご感想をいただき、ありがとうございました。学校評価は学校運営の組織的・継続的な改善、保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり、教育活動の質的向上等を目的に、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都市方式」で実施しています。今回の保護者アンケートの回収率は96%と非常に高く、保護者の皆様の学校教育への関心の高さや進んで協力していただけることを感じております。皆様から頂いたたくさんのご意見やアンケート結果は、校内で共通理解を図り、検討し改善策を考えていきたいと思っています。今後も家庭・地域との連携を大切にしながら、学校教育をよりよいものにしていきたいと考えております。より一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

学校運営協議会理事の皆様より（一部抜粋）

確かな学力について

- ◆ 読書については、毎朝全員が読書をする時間をもつなど、学校の努力のお蔭で本を読む楽しさが身についている様ですが、今後も取り組みを続け、全学年がしっかりと本を読む癖をつけて欲しいものです。
- ◆ 家庭学習については、児童・教職員は良くやっていると見ている様ですが、保護者の見方は厳しい判断になっています。保護者がどれぐらい真剣に児童の学習に向き合っておられるのかは私たちには計りかねますが、上手な関わり方をしてほしいと思います。
- ◆ 家庭で読書をする姿が少ない様ですが、まず保護者が読書に親しむことも大切で、子どもと一緒に読みながら、読書の楽しさや面白さ、自分自身の知識の蓄積へとつなげていって欲しいです。

豊かな心について

- ◆ 学校生活においては、友達同士仲よく楽しく過ごしているようで、友達を思いやる優しい気持ちをいつまでも持ち続けて欲しいものです。
- ◆ 困りごとの相談については、教職員は児童の相談に積極的に関わっていただいている様です。
- ◆ 挨拶については、朝の見守り活動をしているので、本アンケートの結果はよく分かります。特に寒い時期には声が出しにくい様です。

健やかな体について

- ◆ 家庭での生活リズムをしっかりとするためには、家庭でのルールやマナーを身に付けさせることが大切だと思います。
- ◆ スマホやゲームに熱中する時間が増えてきて、朝起きるのが大変になってくるようです。四月からは子どもたちは学年が一つ上がるので、しっかりと睡眠をとり、頼もしく成長していって欲しいと思います。

<アンケートへのご協力・ご意見ありがとうございました。今後の教育活動に生かさせていただきます。>